

「遊ぼうよ! さそえばできる 笑顔の輪」



レクで学校丸ごと 元気アップ!事業 のご紹介



文部科学省
平成26年度 地域を活用した
学校丸ごと子供の体力向上推進事業
山梨県実践報告書

レクで学校丸ごと元気アップコンソーシアム
代表団体
公益財団法人 日本レクリエーション協会



「レクで学校丸ごと元気アップ!事業」

課題認識

- 運動をする子としない子の二極化が進んでいる（体力の偏り）。
- 休み時間や放課後などの運動や遊びの種類が少なく、外で遊ぶ子が減っている。
- 保護者や地域の方々の子どもの体力低下への課題意識が低い。
- 運動・遊びに地域の力を活用した取組が少ない。



以下の事業構造で、運動が

運動・あそび 発見市



Sケン、ゴムダン、石ケリなど、
さまざまな運動を伴う遊びを
紹介する取組

- 運動が苦手・きらいな子どもが運動を好きになる。
- 昔遊びなどをアレンジし、運動量の増加運動の質の向上と、社会性を育む。
- 大学生や地域の協力者との連携が進む。
- 大学生のスキルアップになる。
- 教職員の意識が向上する。

とは？

レクで学校丸ごと元気アップコンソーシアムでは、平成25年度から文部科学省の「地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業」の委託を受けて、この取組を行っています。運動する子としない子の二極化が進む中、学校を核に家庭や地域が一体となり、子どもの体力向上に取り組むものです。事業内容は、「運動・あそび発見市」と「元気アップ・タイム」という2つの取組を組み合わせています。

……▶「レクで学校丸ごと」の主な特長とは

好きな子を増やす取組

元気アップ・タイム

始業前や休み時間などを利用して、「運動・あそび発見市」で紹介した遊びを楽しむ時間

- 学校での遊びの種類が豊富になる。
- 保護者や地域の方々への子どもの体力向上の重要性の啓発。
- 運動・遊びを楽しく伝える研修の実施。
- 各種調査による科学的な検証。
- メディアとの協力による県民への啓発（わいわいステージ）。



運動・あそび発見市

自分流に楽しめる遊びを見つける機会

「運動・あそび発見市」は、Sケン、ゴムダン、石ケリなどさまざまな運動を伴う遊びを紹介する取組で、子どもだけでなく、保護者や地域の方にも参加していただきます。

子どもには、大学生やレクリエーターたち「プレイリーダー」が見本を見せて、遊び方を伝えます。

保護者や地域の方には、子どもと一緒に遊びを体験するだけでなく、専門家による講話を聞き、子どもの体力向上の重要性に気づいていただきます。

体験と正しい知識をお伝えしながら、今後の取組のサポーターとしての協力を呼びかけます。

運動を伴う遊びの体験を通して、自分流に楽しめる遊びを児童（生徒）が発見する機会の提供

保護者や地域住民、教職員への子どもの体力向上の大切さを啓発する機会

「元気アップ・タイム」の運営など、学校をサポートしてくれる人材との出会いの場

アイスブレイク

ねらいなどをお話し、プレイリーダーの指導のもとに参加者全員でココロとカラダをほぐします。

児童（生徒）遊びメニュー体験

元気アップ・タイムでこれから楽しんでいく運動や遊びをプレイリーダーから教わります。

保護者や地域協力者

児童（生徒）が遊びを体験している時間に、専門家から子どもの体力向上の大切さなどについて講話を聞き、学校だけでなく、家庭や地域も連携した取組の必要性について学びます。



トップアスリートによる講演も実施

パラリンピック銀メダリスト鈴木徹さんや、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会招致に活躍した佐藤真海さん、アトランタオリンピックバスケットボール日本代表岩屋睦子さんのお話を伺う機会もありました。

鈴木徹さんは山梨県在住。新田小学校で高跳びを披露してくれました。



キャプテンとプレイリーダー

「学校丸ごと」では、大学生や地域の方々の役割を「キャプテン」と「プレイリーダー」に分けています。

キャプテン …… 遊びの進行係

「キャプテン」は遊びのきまりを伝え、コーナー運営がスムーズに進行するよう児童（生徒）やプレイリーダーに声をかけて遊びを進めていきます。

プレイリーダー …… 遊びの先輩！

キャプテンの指示のもと、遊び方の見本を示しながら運営をサポートします。遊びに熱中するあまり、周りが見えなくなる子どもたちが楽しく遊べるように事故やけがの予防も担います。遊び方がわからない児童（生徒）へのサポートも大切な役割です。



初めはキャプテンやプレイリーダーが中心となり準備をすすめます。次第に児童（生徒）が準備をして取り組むように促します。



元気アップ・タイム

「元気アップ・タイム」は、始業前や休み時間などの時間を利用して「運動・あそび発見市」で紹介した遊びを楽しむ時間です。

まずは、「運動・あそび発見市」で教わった基本的な遊び方からスタートします。スタート当初は地域の協力者や大学生がプレイリーダーとしてサポートします。遊びに慣れてくると、子どもたちが

だけで遊びが展開できるようにプレイリーダーはかかります。大人のサポートがなくても、子ども同士でマナーやルールをつかって楽しめるように育むことをねらいとしています。

遊びが固定化してきたり、人気なくなってきたりした時は、「運動・あそび発見市」を開いて新しい遊びを紹介します。

特長

- 始業前や休み時間などを利用した運動遊びに取り組む時間。
- 運動量を確保し、運動の質を高める遊びを介して運動能力の向上を図る。
- 子ども同士の交流やふれあいを活性化し、協調性や社会性の向上を図る。
- 地域の協力者なども運営をサポートし地域に開かれた学校づくりに役立てる。



基本的な遊び方などをイラスト入りで解説した「遊びのポスター」。学校の廊下などに貼りだし、子どもたちを遊びに誘います。

プレイリーダーは地域から教員そして子どもへと引きつがれる

最初の4回までは大学生やレク指導者などを派遣して、元気アップ・タイムの進め方や遊びの工夫の仕方などを、教職員、子ども、地域協力者(スポーツ推進委員、保護者など)に伝達しました。その後は、教職員や地域の方が主導、そして最終的には子どもだけで遊べるように進めています。

Step 1

大学生やレク指導者により遊びやルールを伝達

Step 2

教職員や地域指導者が主導して遊びやルールを発展

Step 3

6年生たちにプレイリーダーを任せ、子どもだけで準備から片づけまでを展開

遊びの内容は子どもの様子にあわせて見直していきます。「運動・あそび発見市」で紹介したり、遊びのポスターを活用したりすることで、学校毎に手軽に見直しができます。

子どもに人気!“Sケン”

元気アップ・タイムへのリーダー派遣が終了した後も、子どもが主体的に遊んでいる遊びを調べてみると、続けている遊びのなかでSケンが約74%とトップ。続いて門番じゃんけん、ゴムダン、天大中小と昔遊びが人気でした。



モデル校紹介

南アルプス市立若草中学校

所在地 山梨県南アルプス市加賀美 2943
 学校長名 小田切 雅裕
 生徒数 461人 教職員数 41人

学校の取組内容、成果と課題

本校では、全校体制で取り組むことを基本に、始業前の朝の時間を使って、活動した。中学校としては初めての取組ということで模索しながらの活動となったが、生徒が活発になっていく姿から、取り組んだ効果が実感できた。

①生徒、教職員の意識の変化

「元気アップ・タイム」を行う中で、はじめは生徒の動きが緩慢だったが、終了後に行われるキャプテン(大学生)と職員とのミーティングで次回の確認をし、意識の高揚と共通理解が図られ、それぞれの動きが明確になり徐々に精選された活動になってきた。また、教師の生徒への関わりを意識した行動がこれまで以上に高まり、生徒と教師のコミュニケーションが図られた。

②あいさつの活発化

朝の活動で体を動かし、寒い時期では

あったが体が温まることで心も温まり、あいさつが今まで以上に多くなった。もともと本校は、朝のあいさつや休み時間などにおいてもあいさつがよく行われているが、さらに活発になっている。

③文化部活動の運動量が増加

朝の「元気アップ・タイム」を体育の授業がない日に学年ごと設定し、1週間の中で体育の授業プラス1日の「元気アップ・タイム」を行い、文化部活動の生徒の運動量を増加させることができた。スポーツ鬼ごっこや、Sケンなど特に運動量の多い種目は、生徒の感想でも「足が疲れた」「苦しかった」と負荷のかかった活動で効果があった。



甲府市立南西中学校

所在地 山梨県甲府市上石田 4-10-8
 学校長名 荻野 昭彦
 生徒数 287人 教職員数 30人

学校の取組内容

「南西中 ふれあいクラブ」と名付け、11/11～2/24の間に8回、火曜日の放課後、1時間活動した。活動目標は『多くの人と交流しながら明るく楽しく運動やスポーツを行うことで、心や体の健全化を目指す』とした。

メインとする種目をフライングディスク(フリスビー)とし、①正しく投げたり、キャッチしたりする。②的に当てる。ゴールに入れる。(ドッジビーなども)③パスゲームからアルティメットへ発展する。以上のことを目指しながら、場づくりや工夫したゲームを行った。ウォーミングアップとして「縄跳び」や「(スポーツ) 鬼ごっこ」などを取り入れた。

活動は、ふれあいクラブの企画・運営を行う「プレイリーダー」中心に行った。プレイリーダーの主な役割は、①担任教師に申

し出ることになっている参加者を取りまとめ、グループ編成を行う。②毎週、活動プログラムや内容を検討し、役割分担等決める。③活動中は、場づくりや用具の準備・片付け等を行う。④常に参加者の様子を観察し、明るく楽しい活動になるよう促す。などであった。

成果と課題

- 毎回30名から50名程度、3年生中心に参加し、明るく楽しく活動できた。
- 指示がとりにくい時があり、苦労した。静と動のメリハリをつけたい。
- スポーツ鬼ごっこは、手軽で楽しく、アルティメットにつながる動きもあり有効であった。
- アルティメットに発展させるため、いろいろなゲームを考えたり工夫できたりしたことが良かった。
- 来年度も今年同様、10月以降に週1回活動していきたい。また、近隣の小学校とも交流したい。



甲州市立大藤小学校

所在地 山梨県甲州市塩山上栗生野 492-1
 学校長名 中込 和彦
 児童数 79人 教職員数 15人

学校の取組内容

11月8日にトップアスリートを招聘し「運動・あそび発見市」を実施した。その後「元気アップ・タイム」は11月11日から12月10日までの間に予定通り8回実施した。児童の興味や関心を考え、前半と後半で遊びを変えた。前半は、「門番じゃんけん」や「リバーシ鬼ごっこ」、「New ドッジボール」(1・2年)、「ナンバードッジ」(3・4・5・6年)など、集団でできる遊びを新しく取り入れた。後半は、昨年度からの遊びの中で、児童が楽しく遊べた「天大中小」と「Sケン」と紹介していただいた「スポーツ鬼ごっこ」を6年生がリーダーシップをとり実施した。低・中・高学年のグループで、保護者、教師も一緒に遊び、楽しむことができた。

成果と課題

児童の興味や関心に配慮し、集団でできる遊びや人気があった遊びを取り入れた

り、保護者に参加協力していただいたりすることにより、児童は「元気アップ・タイム」を毎回楽しみにしていた。6年生が遊びのリーダーとなって遊びを進めるようになり、全校児童が生き生きと体を動かしている姿が見られた。6年生にとっては、リーダーシップを高めるよい機会となった。遊びを通して体を動かすことの心地よさを体験することができた。また、保護者の方々に参加していただき、児童と一緒に楽しく遊んだり、遊びの指導をしていただいたりしたので、本校の児童との関わりを深めることができた。

今後の遊びの展開の仕方が課題となる。



甲府市立新田小学校

所在地 山梨県甲府市新田町 12-28
 学校長名 英保 進一郎
 児童数 165人 教職員数 20人

学校の取組内容

「運動・あそび発見市」を土曜参観日に実施し、トップアスリートの講演と遊びの体験を行った。また、「元気アップ・タイム」の取組に向けて、先生方から、子供の頃に遊んだ「遊び」を紹介してもらった。8回の「元気アップ・タイム」は、「Sケン」「リバーシ鬼ごっこ」「しりとび」に取り組み、後半は、縦割り班での活動を取り入れた。6年生がプレイリーダーになり、児童が主体的に運営しながら、異学年の交流を深めた。児童と一緒に、地域協力者も保護者も教職員も、本気になって遊ぶことができた。最終回は、高学年のみ、「Sケン」を発展させた「8ケン」(校長先生紹介の遊び)を楽しんだ。

成果と課題

運動・あそび発見市での、トップアスリートを招いての講演は、実技を交えた内容で、

保護者も児童も熱心に聞く姿が見られた。「元気アップ・タイム」は、児童にとって初めて経験する遊びであったため、どの遊びも夢中になって取り組む姿が見られた。課題としては、8回の「元気アップ・タイム」に取り組んでいる期間は、教えてもらったことを生かし、休み時間に自主的に行う姿も見られたが、取組が終わると、遊ぶ姿も減ってきたことである。継続させる取組方法の改善が必要である。



北杜市立白州小学校

所在地 山梨県北杜市白州町白須 225

学校長名 今井 哲郎

児童数 132人 教職員数 16人

学校の取組内容と成果

「運動・あそび発見市」は、PTA 専門部主催で実施した。「保護者向けセミナー」と「遊び体験」を同時進行で行い、新しい遊びを楽しんだ。「元気アップ・タイム」は、朝活動の時間（8:30～8:50）を活用して、低学年、中学年、高学年の3グループで実施した。発見市の遊びやそれ以外の遊びにもチャレンジした。同じ遊びでも、学年によってルールや場の工夫をして取り組むことができた。地域の方は、毎回7～8名協力していただき、各グループに2～3名プレイ

リーダーとして参加して盛り上げた。

取組をととして、体育のウォーミングアップ、学級、全校レクリエーションなどに、遊びを取り入れるようになった。また、学校で行った遊びを、「放課後児童クラブ」や地域の「ワクワク教室」等、学校外でも行うようになった。さらに、体育委員の児童が中心になって準備や片付けを行い、児童の主体性を育むことができた。



北杜市立武川小学校

所在地 山梨県北杜市武川町牧原 944

学校長名 保坂 晋也

児童数 140人 教職員数 17人

学校の取組内容と成果

本校では、6月20日の「運動・あそび発見市」をスタートとして、8回の「元気アップ・タイム」を計画実施した。「元気アップ・タイム」は、業前の8:20～8:35の15分間、低中高学年別に



3種目を選定し、毎回違った種目で楽しめるようにした。地域協力者の方々には、保護者・青少年育成推進

員等、17人が登録されていて、毎回10人程度の参加・協力をいただいた。種目は、Sケン、リバーシ等の体を十分に動かすものを中心に選び、学年を超えて一緒に取り組めるようにした。

取組の成果は、以下の通りである。

- ①多くの外部の方々との交流を深めながら体を動かすよい機会となった。
- ②休み時間にも元気アップで行った遊びで楽しむ姿が多く見られた。
- ③対戦形式の遊びでは、学年を超えた交流や作戦を立てることによって、学年内の友人関係を深めることにも繋がった。
- ④早朝の登校時刻から間もない集合時刻だったが、時間を守る生活習慣づくりの一助となった。



甲斐市立敷島北小学校

所在地 山梨県甲斐市境 57

学校長名 秋山 均

児童数 235人 教職員数 22人

学校の取組内容と成果

「運動・あそび発見市」では、「保護者向けセミナー」（保護者・地域の方・教職員参加）を実施した。セミナー後に、保護者や地域の方は、発見市の様子を見たり、一緒に遊びに参加したりした。「元気アップ・タイム」第1～4回は、大学生（キャプテンやプレイヤー）から遊びを



教えてもらった。第5～8回は、6年生がキャプテンやプレイヤーになって、縦割り班で実施した。保護者の参加は全8回とも数名ずつあり、一緒に遊んだり、声かけをしたり、積極的に遊びの輪に入ってくれた。

～児童の感想より～

- いつもしている遊びと違って、たくさんの発見がありました。
- 分かりやすく教えてもらい、ルールが分かり、仲よく遊べました。
- 後半は、縦割り班で遊びました。教えるのは難しかったけど、教わったことを思い出してやったら、スムーズにできました。
- 6年生や4年生と友達になれました。



笛吹市立一宮北小学校

所在地 山梨県笛吹市一宮町中尾 933
 学校長名 齊藤 文栄
 児童数 106人 教職員数 16人

学校の取組内容と成果

これまで、本校は全校体育の時間として始業前に「松の子タイム」を設け全校一斉に体力づくりに取り組んできた。また、水曜日の昼休みを30分間とり、各学年で工夫した遊びを行う「スーパーロングタイム」を設け、外遊びの推進を図ってきた。

今回、本事業に取り組むことで、これまで実践してきた内容をより充実させ、児童が外遊びを楽しいと思えるような意識をつけさせるよい機会となった。児童は「運動・あそび発見市」を

体験することにより、今までとは違った遊びに積極的に取り組む姿が見られ「スーパーロングタイム」の内容も充実してきた。学年によっては、ボールなど用具を使った遊びが主だったものが、鬼ごっこなど、用具を使わないでもできる遊びに変わってきた。児童はさまざまな遊びを知ったり、ふれたりすることにより、遊びの幅が広がり外遊びをする児童が多くなってきている。

今後は、まだ紹介していない遊びを児童に伝え、よりたくさんの遊びにふれさせることによって、さらに遊びの楽しさや外遊びの楽しさを伝えていきたい。



大月市立七保小学校

所在地 山梨県大月市七保町葛野 2345
 学校長名 佐藤 親雄
 児童数 93人 教職員数 12人

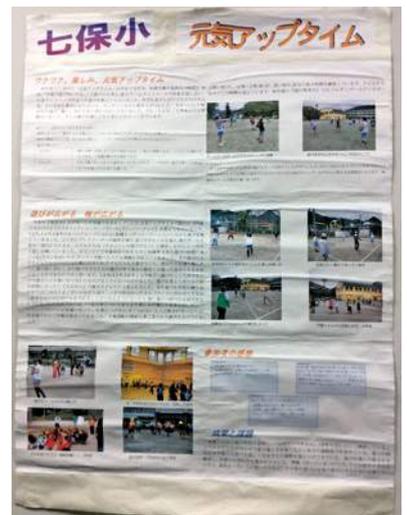
学校の取組内容と成果

今年は、新たに「門番じゃんけん」「天大中小」「New ドッジボール」「ナンバードッジ」を楽しんだ。低、中、高学年の3つに分かれ、毎週1つずつ、遊びをローテーションして行った。はじめにプレイリーダーの説明を聞き、遊び方やルールを覚え、鬼やチームを決めてから遊びに入る



ので、児童は(今日はどんな遊び

だろう)と期待しながら、しっかり話を聞いていた。学童保育の先生3名と保護者4名も「元気アップ・タイム」に来てくださり、一緒に遊びを楽しみ、児童も大喜びだった。2学年ずつで遊んだことは、同学年だけで遊ぶことが多い本校にとって、友達との交わりを広げることにつながった。また、繰り返し遊ぶ中で、はじめはうまくできなかった児童も、遊び方を理解し、技が身につくことで、楽しさが増してきた。毎週30分間、遊ぶ時間を確保し「元気アップ・タイム」(学年レク)に継続して取り組んだことで、児童が、みんなで遊ぶ楽しさを感じながら、体力や運動能力を高めることができた。遊びが固定化せず、さまざまな遊びを通して、体と心を解放し、友達との交わりを豊かにできた。



都留市立谷村第二小学校

所在地 山梨県都留市法能 923
 学校長名 折山 三雄
 児童数 119人 教職員数 12人

学校の取組内容と成果

10月1日、「運動・あそび発見市」を開催した。「元気アップ・タイム」は、休み時間や放課後などを活用して、低、中、高学年の3つのグループに分かれて、「ゴムダン」、「Sケン」、「リバーシ鬼ごっこ」を



を大学生、保護者・地域の人がプレイリーダーやサポーターとして活躍しながら参

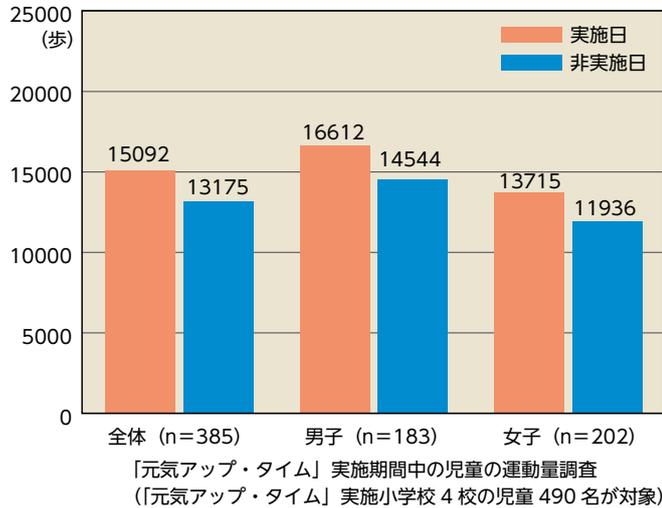
加し、8回行った。子どもたちでルールを考えて遊んでいる様子も見られ、グラウンドに全校児童のにぎやかな声が響きわたった。本事業を通して、これまでは少人数で遊んでいた児童が集団で楽しく遊ぶ姿が見られるようになった。また、運動委員会主催で「ミニスポーツ集会」を開催し、低学年・高学年が4つの縦割り班に分かれて「門番じゃんけん」を行った。運動委員が、オレンジのピブスを着てキャプテンとなり、5・6年生がグリーンのピブスを着てプレイリーダーとして活躍した。短い時間だったが、気持ちのよい汗を流し、異学年で遊ぶ楽しさを十分味わうことができた。



調査によって、いろいろな効果が明らかとなりました

子どもの体力向上に与える影響などを調査したところ、さまざまな効果が明らかとなりました。

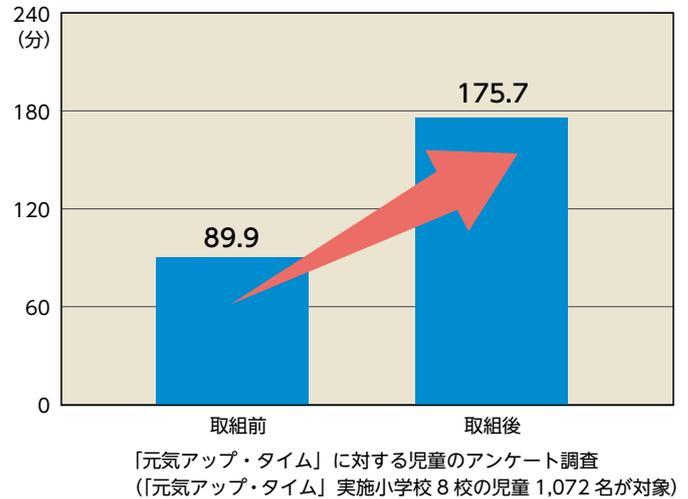
■ 児童の運動量の変化



「元気アップ・タイム」により児童の運動量(歩数、活動時間)が増加した。

「元気アップ・タイム」の実施日には、激しい活動(速歩以上の活動)の時間も増加した。

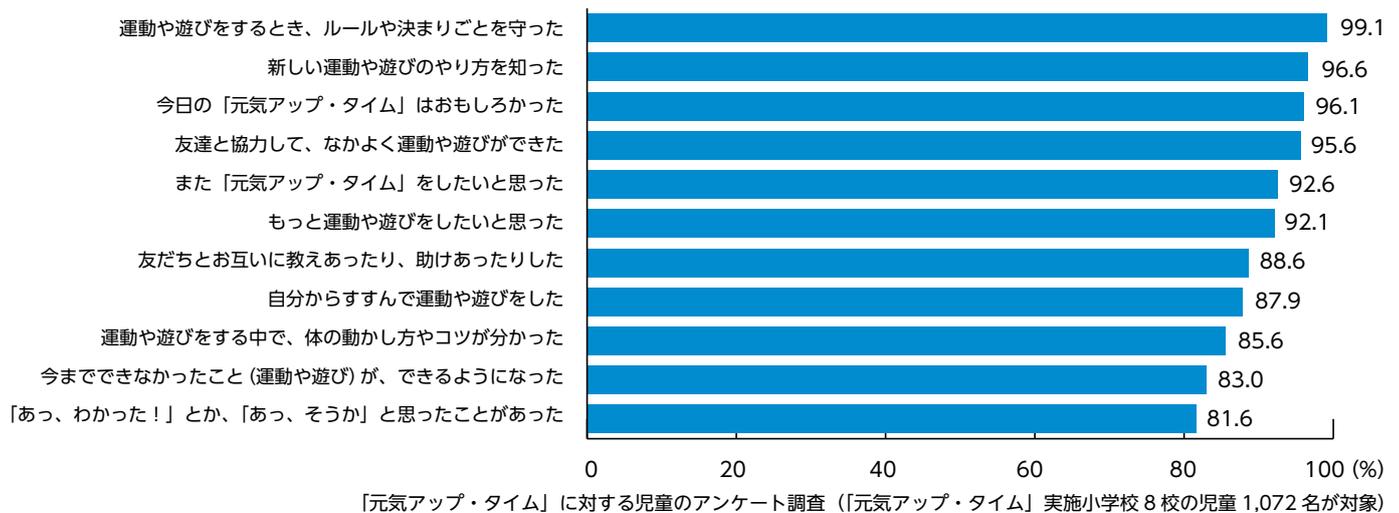
■ 運動がきらい・苦手な児童の1週間の総運動時間の変化



運動がきらいな児童や苦手な児童の1週間の総運動時間が増加した。(89.9分→175.7分)

運動がきらいな児童の1週間の総運動時間が、「元気アップ・タイム」の取組後に85.8分増加した。また、運動が苦手な児童では46.1分(152.9分→199.0分)増加した。

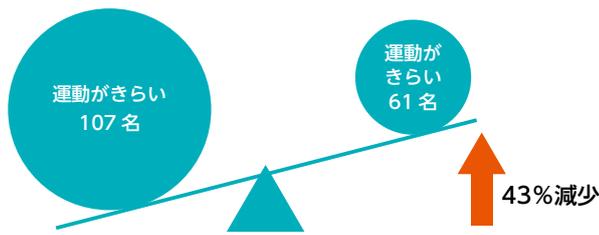
■ 取組による児童のさまざまな経験と理解



「元気アップ・タイム」を通じて、99.1%の児童が「ルールや決まりごとを守る」ことができ、95.6%の児童は「友達と協力して遊べた」というようなさまざまな経験ができた。

性別にみると、男子よりも女子において各設問に対する肯定的な回答の割合が高かった。このことから、女子において、よりさまざまな経験をしていることが考えられる。

■ 取組後の運動がきらいな児童の運動に対する好ききらいの変化

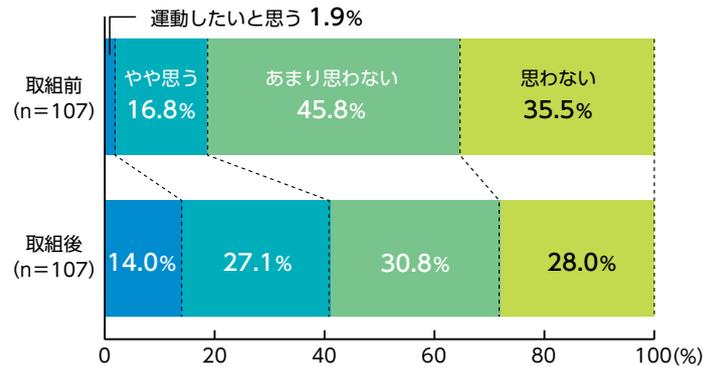


「元気アップ・タイム」に対する児童のアンケート調査
 (「元気アップ・タイム」実施小学校8校の児童1,072名の中で「運動がきらい」と回答した児童107名が対象)

運動がきらいな児童が運動を好きになった。

「元気アップ・タイム」の取組前に運動がきらいな児童は**107名**(全体のうちの10.0%)であり、そのうちの**43.0%**の児童が取組後に運動を好きになった。

■ 運動がきらいな児童の運動への意欲の変化

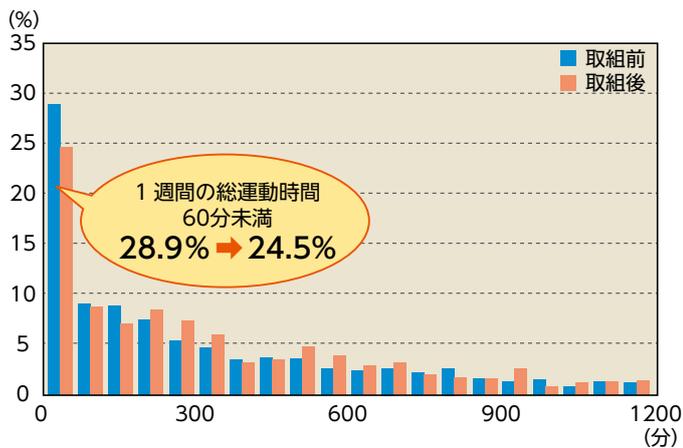


「元気アップ・タイム」に対する児童のアンケート調査
 (「元気アップ・タイム」実施小学校8校の児童1,072名の中で「運動がきらい」と回答した児童107名が対象)

運動がきらいな児童が運動をもっとしたいと思うようになった。(18.7%→41.1%)

「元気アップ・タイム」の取組前に運動がきらいな児童は**107名**(全体のうちの10.0%)であり、そのうちの**22.4%**の児童が取組後に運動をもっとしたいと思うようになった。

■ 児童の1週間の総運動時間



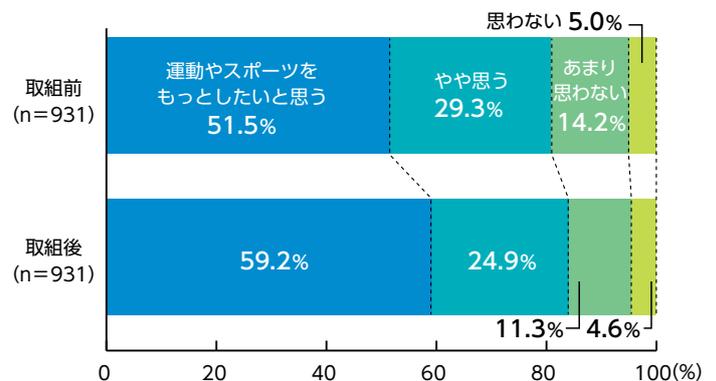
「元気アップ・タイム」に対する児童のアンケート調査
 (「元気アップ・タイム」実施小学校8校の児童1,072名が対象)

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合が減少した。(28.9%→24.5%)

1週間の総運動時間が0分の児童も減少し、児童の1週間の総運動時間の平均値が増加した。

(379.5分→397.9分)

■ 児童の運動習慣の変化

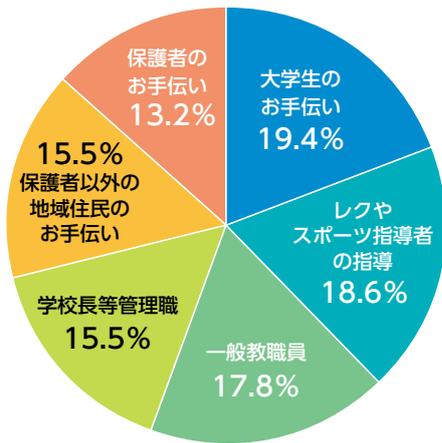


「元気アップ・タイム」前後における児童の運動習慣・生活習慣の変化に関する調査 (「元気アップ・タイム」実施小学校8校の児童931名が対象)

運動やスポーツをもっとしたいと思う児童が増加した。(51.5%→59.2%)

「元気アップ・タイム」の取組後に運動やスポーツをすることが好き、得意と答える児童も増加したことから、運動やスポーツに対して好意的なイメージの児童が増加したと考えられる。

■ 大学生自身が役割の重要性を意識

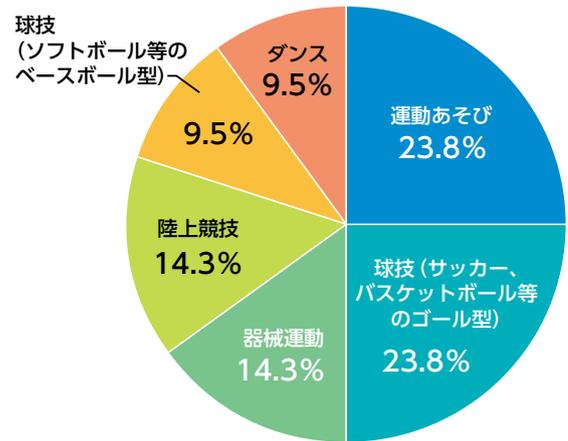


「元気アップ・タイム大学生アンケート」(「元気アップ・タイム」にプレイリーダー等として参加した大学生 70 名への調査)

「元気アップ・タイム」で重要な役割を担う立場を聞くと、大学生自身が自分たちの役割が重要だと回答。

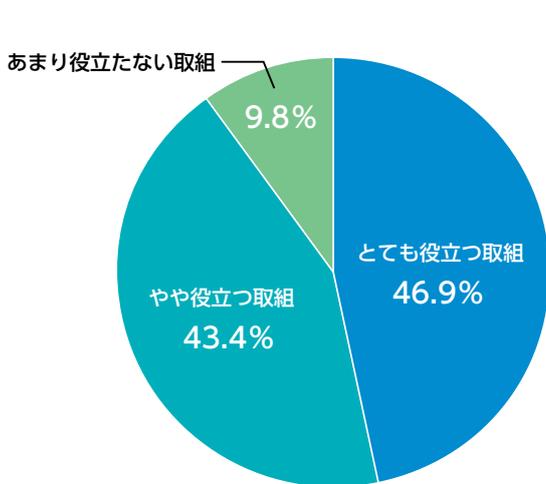
また、今後も「元気アップ・タイムの指導やサポートを行いたいと思うか」を聞いたところ、全員が行いたいと回答している。

■ 支援してみたい活動



大学生がもっともかかわりたい活動は「運動あそび」と「球技(サッカー、バスケットボール等のゴール型)」

■ 子どもを運動好きにさせることに役立つか

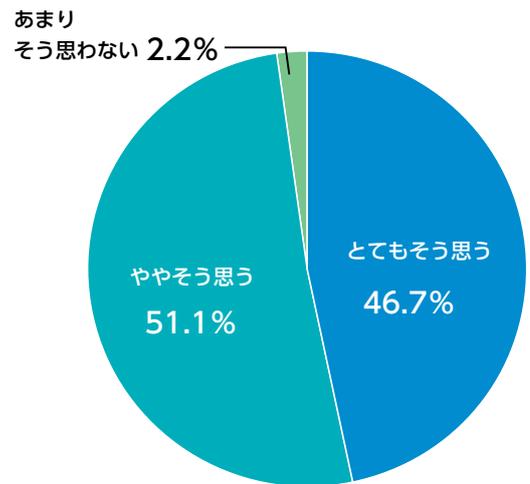


「モデル校教職員向けアンケート」(「元気アップ・タイム」実施小学校 8 校中学校 2 校の教員 143 名への調査)

教職員の 90.3%が元気アップ・タイムは子どもを運動好きにさせることに効果ありと回答

小学校教職員については、**97.1%**が「効果あり」と高い効果を認めている。

■ 今後も指導やサポートに参加したいか



「元気アップ・タイムに関する地域協力者への調査」(「元気アップ・タイム」実施小学校 8 校でプレイリーダーなどとして遊びのサポートにかかわった地域住民や保護者 100 名への調査)

地域の人材の 97.8%は、この事業に今後も参加したいと回答。(地域協力者調査)

また、今回の事業に参加してよかったかを聞いたところ全員が「参加してよかった」と回答している。

学校丸ごと事業の取組を全県に発信

平成 27年 2月 15日 (日) 山梨県立文学館を会場に、県内から約 240名の参加者が集い「ハッケン!! わいわいステージ in 山梨」を開催しました。また、当日の様子は、山梨日日新聞を通じて全県に紹介されました。

子どもから大人まで 1534 の遊びのアイデアが集まる

山梨日日新聞紙面やチラシなどを通じて募集した遊びのアイデアは、昨年を上回る 1534 件の作品応募がありました。大学生などのプレイリーダーにより選考し、専門家による最終審査を経て優秀作品が選ばれました。選ばれた作品は「遊びのポスター」として小中学校で行う取組の中で紹介する予定です。

優秀賞などに選ばれた作品



山梨日日新聞 1月29日



アイデア募集のチラシ



若草中学校 3年 望月勇志さん
「STOP ドッジボール」



甘利小学校 6年 山本大翔さん
「あて鬼」

玉穂南小学校 6年 三浦葉水妃さん
「円形ドッジボール」

玉穂中学校 2年 3組 5班の皆さん
「たすけオニ」



モデル校実践報告

「甲州市立大藤小学校モデル校実践報告」

甲州市立大藤小学校 土屋弘明教諭

大藤小学校は、モデル校となって2年目。校舎や体育館の改修など運動におけるマイナス要素が多い中、本事業への取組を行うことで、体力低下を防止するだけでなく、全国平均を上回る種目(男子で13種目、女子で8種目)が増えるなど、体力向上につながった。

「子ども! 学校も! 地域も! 笑顔いっぱい

～レクで学校丸ごと元気アップ事業の取組を通して～

甲府市立新田小学校 清水宏次教諭

新田小学校は1年目の取組。「運動・あそび発見市」で紹介された遊びのほか、教職員から遊びを募集。Sケンアレンジした8ケンという遊びなど、遊びの豊富化も進めている。



新体カテストの結果から

- ・全国平均を上回る種目
男子で13種目、女子で8種目増えた。
- ・合計得点の昨年度との比較(学年ごと男女別)
12ブロック中9ブロックで上回った。
- ・合計得点の県平均との比較(6学年中)
男子が4学年で、女子が4学年で上回った。
- ▶歩数計による調査
一日2万歩を超える児童も見られ、毎日安定して高い数値が記録され、運動量の増加を確認。

遊びを通しての体力向上

遊びの発見
時間・空間・仲間
13種目の発見

学校
地域
家庭

外遊びが好きな子の増加

6年生のプレイリーダーとしての役割

- ・ピプスの準備
- ・下給生の世話
- ・始動設定・・・等々

必ずしもスムーズに進行とは
思えないが・・・
回数を重ねることで
「できるかな」
という不安から
「大丈夫」
という自信へ

先生方の振り返りから

- ・満足感がいっぱい、子どもがその後の授業に集中して取り組むことができた。
- ・なかで、ケンがなくなるほど一生懸命頑張っていた。その後、棒取りして「次は負けたくない。」と素直に気持ちを切り替えていた。
- ・外で遊ぶ子が増えた。
遊び方の幅が広がった。
- ・外で遊ぶ約束をする子どもの姿が見られた。
- ・ケンをする姿が見られた。
- ・ボール遊びをしなくなった男子が、鬼ごっこなど、ボール以外の遊びをするようになった。
- ・元気upの前から、10人前後で鬼ごっこをしていたことが多かったが、元気up後には、その時に鬼ごっこでもあった8ケンを、ほとんども全員でやっていることが何回かありました。

運動あそびの楽しみ方を伝える講習会

モデル校で実際に子どもたちと遊んでいただける大学生やスポーツ・レクリエーション指導者に向けて、Sケンやゴムとびなど昔からある遊び・新しい遊びのルールや進め方を伝える講習会を開催しました。

◆ ルールのアレンジの視点も伝える

子どもに合わせてルールを変える、進め方を変えることを視野にいれ、アレンジ方法についてもレクチャー。

◆ 参加者が実際に指導する場面を講習に取り入れる

◆ 段階指導で整理して展開する

◆ 教員も参加し現場の声を引き出す

◆ 遊びのポスターの配布

基本的な遊び方などをイラスト入りで解説した「遊びのポスター」。学校の廊下などに貼りだし、子どもたちを遊びに誘います。



キャプテンとプレイリーダーへ伝えた思い

- 運動が苦手、きらいという子を無くすことがねらいの取組です。子ども自身がグラウンド、体育館で運動遊びに主体的に取り組む雰囲気づくりに努めてください。
- 「転ばぬ先の杖」は遊びでは厳禁！ 簡単にコツを教えず、子どもの気づきを育む働きかけを。
- いつも元気に声かけをします。特に失敗したときに「ドンマイ」「つぎガンバ！」など。上手くいったら「ナイス！」など、とにかく声を出し合いながら遊ぶことが楽しいことを伝えてください。できないことができるようになったり、子どもらしく全身で楽しんでいたりするなど「よい」部分を見つけたら「フェアプレイ」、「ナイスプレイ」など励まし、応援してあげてください。
- よくできる子やリーダー性のある子を見つけたら、ルールやマナーを守る見本となってもらいましょう。また、よくできる子には、レベルアップの動作を加えて挑戦させるようにしましょう。
- 仲間をけなしたり、順番を守らなかったりなど、ルールやマナー違反は遊び仲間に加われないこと（それはさみしいこと）をよく理解させてください
- おりにふれ、1人遊びはつまらない、仲間がいるから楽しさがアップすることを伝えてください。学年や実力が違う仲間と楽しむためにハンデなどの工夫があり、それが遊びの醍醐味ということを伝えてください。

キャプテン

遊び方を伝え、全体を盛り上げる人。時間管理をしながら、コーナー運営がスムーズに行えるよう子どもやプレイリーダーに声をかけ、コーナー運営を総括します。

プレイリーダー

キャプテンの指示に即応しながら、見本を示したり、つまずいたりしている子を個別支援する役割です。また、事故やけがの予防も大切な役割。遊びに熱中するあまり周りが見えなくなる子どもたちが楽しく会を終えられるようにサポートしましょう。

本事業の推進体制

レクで学校丸ごと元気アップ！事業は、山梨県内の団体を中心に、さまざまな連携・協力体制を構築して推進しています。

公益財団法人日本レクリエーション協会

取組の成果を全国各地に広げるため参画。子供の体力向上の各種取組ノウハウを提供。

山梨県教育庁スポーツ健康課

モデル校とともに、本事業を推進する中核。市町村や学校単位で独自に取り組めるように制度化をすすめる。

事業企画推進機能(コンソーシアム)

山梨大学教育人間科学部

大学生指導者派遣の調整や体力に関する各種調査の分析

立教大学ウエルネス研究所

社会学的見地からの各種調査の分析

事業推進協力団体

モデル校への指導者(学生)の派遣

- 山梨県スポーツ推進委員協議会
- 山梨県レクリエーション協会
- 山梨県体育協会
- 都留文科大学
- 山梨県立大学
- 山梨学院大学

新聞やテレビ、イベントを通じて県民に本事業の取組を周知

- 山梨日日新聞社
- YBS 山梨放送



子どもの体力向上に関する詳しい情報はホームページでご紹介しています。

子どもの体力向上

検索



山梨県でこうした取組を進める小学校・中学校を募集しています。
お気軽にお問い合わせください。

山梨県での取組をより詳しく知りたい方は
こちらへお問い合わせください。

問い合わせ・連絡先窓口

山梨県教育庁スポーツ健康課 学校体育担当
〒400-8504 山梨県甲府市丸の内一丁目6番1号
TEL 055-223-1783 FAX 055-223-1786



レクで学校丸ごと元気アップコンソーシアム

代表団体 公益財団法人 日本レクリエーション協会